

編集後記

▼お待たせしました。「現代宗教研究」第五十二号をお届けします。

▼第五十回中央教化研究会議では、昨年と同様に原点に立ち返り、日々我々が礼拝している本仏について今一度認識を深める事を主眼としました。昨今の社会状況を鑑みると、これまで我々にとって「当たり前」であった事は、未信徒や引いては檀信徒にとつてさえも当たり前でないと考えられる事が多い、というような社会との乖離を感じるようなように思われます。しかしその一方で、社会から宗教者へ、現在のひずみを正すための役割が強く求められてもいるように思われます。その際、私たちは、宗教者として自らの依り処を明確に自覚した上で彼らと接する必要があるはずですし、それが求められている事だとも思います。今回は、日蓮宗にとっての本仏について各々が理解を深め、さらにこのことよって生じるであろう事態を想定した分散会を行いました。今一度自らの足下を見つめ直す機会とお考え頂ければ幸いです。また、最後に記念講演として、石川県蓮昌寺住職

であり、社会福祉法人佛子園理事長でもる雄谷良成師に、佛子園にて実践されている障害者や高齢者、子ども達とあった、これまで別々にケアしていた人たちを「ごちゃまぜ」にすることで相互に良い効果が出ている事例をご講演頂きました。是非ご一読下さい。

▼研究ノートは、研究員・嘱託各師の研究成果を収録していますが、前号に引き続きハワイ日蓮宗別院主任平井智親師より、その存在が忘れられていたオアフ島の収容所についてのご報告も掲載しております。

▼第二十六回法華経・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナーでは、「唱題成仏を問う」と題し、蓑輪顧問の講演を受け、影山・高佐・赤堀各師より実践的立場から唱題成仏を考えるご発表を頂き、その後討議を行った模様を収録しております。

▼研究・調査プロジェクト報告は、現代教化学部門より生死観・葬儀観のチームから、後見人制度についての報告を収録しました。